



日本遺産

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～

北前船が栄えた時代、直江津は「^{いままち}今町」と呼ばれ、高田藩の外港である今町の港には北前船が寄港しました。さらに鉄道が開通すると、直江津は海陸の要所として大いににぎわいました。

詳しくは



「^{ふなだんす}船筆筥」と「^{ふなてがた}船手形」

「船筆筥」は、北前船の中で金庫として使われていました。盗難などから中身を守るために頑丈な作りになっているだけでなく、万一遭難したときには水に浮くようになっており、また、中身が濡れることもないような精巧な作りでした。

「^{ふなかんさつ}船手形」は、「船鑑札」とも呼ばれる北前船の営業許可書です。船手形や通行許可書である「往来手形」などは北前船の船主・船頭にとって非常に大切なものだったため、帳簿などの重要な書類や現金、印鑑などと一緒に船筆筥の中に入れてられていました。



◀船筆筥(左)と船手形(右)
(上越市立歴史博物館所蔵)

「^{ふくなが けもんじょ}福永家文書」から見る今町のすがた

今町は、10（文化年間以降は12）の個別町で一つの大きな町を形作っていました。今町のとりまとめ役・^{おおぎもいり}大肝煎を長く務めた福永家に伝わる「福永家文書」は、北前船寄港地であった今町の姿を今に伝えます。江戸時代に描かれた絵図や図面を見ると、町並みは細長い短冊形の敷地に区画されていることが分かります。通りを挟んだ両側の町並みが一組となって、一つの個別町を形成しています。例えば^{よりまち}寄町（現在の住吉町の辺り）は湊の荷役に携わる人たちが居住するなど、各町はそれぞれの役割を担い、今町を形成していました。

また、「^{そうまち}今町惣町寺院絵図」と現在の地図とを見比べてみると、町割りがほとんど変わっていないことも分かります。これは直江津の人たちが、繰り返される大火に負けることなく、何度も江戸時代からの町並みを守り、復興してきたことを示しています。



▲今町惣町寺院絵図
(上越市立高田図書館所蔵)

広報対話課から

(☎025-526-5111)

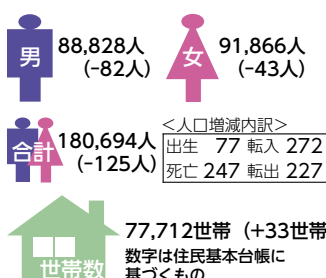
「広報上越1月号」は、12月23日㊥・24日㊦に各町内会へお届けし、各世帯にお配りします。届かない世帯の人は、広報対話課または、各総合事務所へご連絡ください。

上越市ホームページアドレス <https://www.city.joetsu.niigata.jp/>

♻️70 (古紙パルプ配合率70%再生紙を使用)

上越市の人口・世帯数

令和6.11.1現在。()は前月との比較



表紙のことは：冬の夜空をキラリと照らせ

11月11日、上越妙高駅東口でイルミネーションの設置作業が行われました。作業には、上越総合技術高校電気科の生徒から参加いただき、楽しそうにおしゃべりをしながら、和気あいあいと作業を進めている様子が印象的でした。イルミネーションは午後5時から11時まで点灯されています。お立ち寄りの際はぜひご覧ください。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサル
デザインフォントを採用しています。